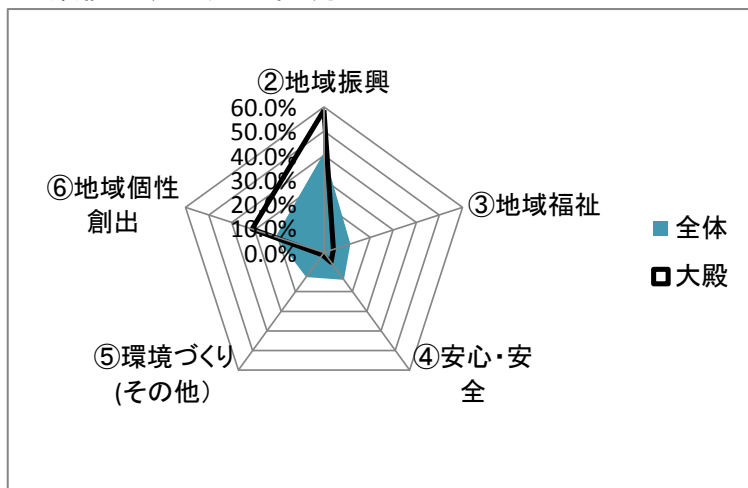


おおどのコミュニティ協議会 地域づくり交付金事業概要(平成28年度)

■地域の情報

地域人口	7402人	自治会数	29
世帯数	3322世帯	自治会加入率	89.89%

※数値は、平成29年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,925,000 円
交付金決算額	7,544,874 円
その他収入	489,968 円
交付金決算額／配分額	95.2%

各分野の決算

①協議会運営	4,182,344 円
②地域振興	2,258,830 円
③地域福祉	156,921 円
④安心・安全	190,164 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	45,560 円
⑥地域個性創出	1,201,023 円
決算総額	8,034,842 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

心豊かに暮らし続けることができるまちづくり「住んでみたいまち 訪れたいまち 働くところのあるまち」

■総括

第3期地域づくり計画に沿った活動の2年目、連携団体の増加や新しい運営委員・部会員の参画があった。これを受け運営委員会で、「協働のまちづくりとおおどのコミュニティ協議会」や「つながる大殿七タちようちんの灯事業」についての研修を実施した。運営委員会と専門部会(あんぜん・やすらぎ・にぎわい)の役割を再確認しながら進め、中間テストとして大殿のまちづくりクイズで振り返る工夫も行った。年間行事予定表や部会別事業スケジュール表の活用により、各事業は地域づくり計画に掲げた課題解決のための事業だという認識も深められてきた。出席者数にバラつきもみられるが、みんなで話し合い、「実施、検証、次へつなげていこう」という会議運営ができています。引き続き、地域課題は部会からのボトムアップという視点を大切にして取り組んでいく。コミュニティ事業を知ってもらい、参加してもらい、参画してもらいという段階を踏んでつながっていけるよう、みんなで振り返りをしながら持続可能な事業運営を一步ずつ進めていきたい。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局人件費および事務費
② 地域振興	・地域情報の発信と広報活動 ・体育振興 ・地域コミュニティ推進(つながり、次世代育成) ・助成金交付
③ 地域福祉	・三世代交流 ・健康体操教室
④ 安心・安全	・大殿地区安心安全のつどい ・自主防災活動推進 ・地域見守り活動 ・反射鏡設置
⑤ 環境づくり	・環境整備
⑥ 地域個性創出	・伝統文化の保存継承

■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	地域情報の発信と広報活動、地域コミュニティ推進(つながり)	決算額	311,611円
	目的	広報活動…地域情報の共有や発信を進めていく コミュニティ推進…新たな人材の巻き込みを図り、地域間交流を通じて他地区との連携強化を進める		
	実施内容	広報活動…ホームページ刷新、コミュニティだより発行、地域情報の収集・発信 コミュニティ推進…研修(学校シリーズ・ものづくり講座)の開催		
	実施時期	広報活動…通年 コミュニティ推進…H28年4月～12月		
	参加人数	コミュニティ推進…100人		
	成果	広報活動…広報紙・ホームページで部会情報や各事業の告知・報告を定期的に実施 コミュニティ推進…研修事業により参加者同士の交流、他地区(仁保)との連携強化		
	評価	広報活動…事業の記録・地域内情報共有の仕組みづくりという点で目標に到達 コミュニティ推進…参加者には好評、継続実施でさらなる地域住民の巻き込みが期待できる		
	今後に向けて	広報活動…現状ベースの情報発信を継続 コミュニティ推進…地域の魅力再発見と新たな人材巻き込みにつながる活動の推進		
②	事業名	大殿地区安心安全のつどい	決算額	70,120円
	目的	体験を通して毎日を安心安全に暮らすための意識啓発を図る		
	実施内容	「大殿地区安心安全のつどい」開催		
	実施時期	平成28年11月13日		
	参加人数	300人		
	成果	災害時の非常持出グッズにまつわるクイズや非常食の試食などで意識啓発 当日運営に県大生や大殿中ボランティア協力		
	評価	ふるさと祭りとの同時開催による周知拡大が図れ、クイズなどを通じて啓発できた		
	今後に向けて	体験コーナーの新企画が好評につき、次年度も部会協議の上で取組継続		
③	事業名	伝統文化の保存継承	決算額	1,201,023円
	目的	地域の伝統文化(祭り)を通して地縁の強化を図る		
	実施内容	地域内で開催される「祭り(ほたる祭り・ちょうちん祭り・ふるさとまつり)」の実施		
	実施時期	平成28年5月27日・8月6日・11月13日		
	参加人数	1,000人		
	成果	前年度振り返りアンケート結果を受けての変更実施。町内会をはじめ、OTK(大殿中大殿地域に貢献し隊)や大勢のボランティアの協力によって継続実施できた		
	評価	地域のつながり、地域の誇り、地域への愛着が感じられる事業になった		
	今後に向けて	引き続き「持続可能なもの」としていくために意見集約を重ねて運営を工夫		